月刊 あなたにこの本を！

平成 19 年 2 月号
大阪市立図書館
「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（　）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

うつくしく、やさしく、おろかなり ―私の惚(ほ)れた「江戸」―

杉浦日向子　著
筑摩書房　1470円　(0011258187)

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

江戸風俗研究をライフワークとした著者の生前の講演・エッセイを、遊び、暮らし、食事情に分けてまとめたのが本書である。「粋(すい)」と「粋(いき)」のちがい、歌麿・春信らの美人画に見る世相の変遷、江戸で生まれた丼(どんぶり)ものとカレーライスの関連性など、様々な角度から江戸を紹介する。とことん江戸に惚れこんだ著者が再現した町の様子は、賑(にぎ)やかな活気にあふれている。江戸っ子さながらの軽快な語りくちが心地よい。〔210.5〕

ドリアン ―果物の王 カラー版―

塚谷裕一　著
中央公論新社　1029円　(0011302088)

ジャンル ： 自然・環境を考える

日本ではドリアンは高価で臭いと敬遠され、果物の王様とは名ばかりの扱いをうけることが多い。そんな世間に異を唱えるのが植物学者である著者だ。カラー写真を駆使し、ドリアンの選び方、育て方、食べ方にいたるまで、その魅力をあますことなく伝える。「ビールと一緒に食べると死ぬ」という言い伝えが誤りであることを自らの身をもって証明するなど、ドリアンへの深い愛情が感じられるエピソードも豊富。読み物としても楽しめる。〔625.2〕

日本語でなまらナイト ―しのざき教授のなまらやさしい方言講座―

柳川圭子　著、しのざきこういち　監修
小学館　1260円　(0011278224)

ジャンル ： 知識・教養を深める

共通語では言えない心情を素直にあらわせる表現手段である方言。『うる星やつら』のラムちゃんが言う「だっちゃ」って？　黒板消しのことを夫は「ラーフル」だと言い張るのですが？　など方言に関する身近な疑問に答えるのが第1章。第2章では都道府県別に見開き2ページを使い、全国の様々な方言について解説する。親しみやすい語り口で、自然に日本の方言を一望することができ、日本文化の奥深さをあらためて実感できる。巻末索引つき。〔818〕

失敗学実践講義　ーだから失敗は繰り返されるー

畑村洋太郎　著
講談社　1680円（0011288682）

ジャンル　：　知識・教養を深める

脱線事故やリコール隠しなど、近年発生した様々な事故や失敗は、関係する企業の存続に関わるほどの事態を招くことがある。そして、事故や失敗はそれを無くそうとする企業の努力に関わらず発生する。本書は実際に起こった事故などを例にとり、原因、人々の行動、その結果を分析する。事故を未然に防ぐのはもちろん、その発生時にどのような対応をすればよいのか。トラブルに強い組織や個人のあり方を示唆する。〔336〕

新・学歴社会がはじまる　ー分断される子どもたちー

尾木直樹　著
青灯社　1890円（0011309055）

ジャンル　：　現代社会を見つめる

給食費などの就学援助を受ける世帯が急増する一方、高額な授業料の中高一貫校の誕生が話題となる。このような親の経済力が子どもの学習環境を左右する「新・学歴社会」が生まれつつある。その原因となった教育改革について解説した上で、豊富なデータを用いて現状を強く批判する。さらに、子どもに必要な学力とは何か、親は何を望むのかをニート問題や世論調査を通して考察。元教師である著者が教育再生の手がかりを示す。〔371.3〕

もうひとつの学校　ーここに子どもの声がするー

宮原洋一　写真・文
新評論　2100円（0011299582）

ジャンル　：　子どもの成長のために

昭和40年代、町なかには大人のいない、子どもだけの「もうひとつの学校」があった。場所は空き地や資材置き場などで、そこにある道具と想像力を駆使して、子どもたちはあそびをより面白くしようと一生懸命だった。だがこの「あそび」を通して、子どもはものの考え方や人とのつきあい方を学んでいたのである。本書にはそんな「あそび」の風景をとらえた写真が数多く収録されており、今は失われてしまったこの「学校」の必要性を考えさせられる。〔371.45〕

昭和モダン建築巡礼　西日本編

磯　達雄　著、宮沢　洋　イラスト
日経BP社　1890円（0011304527）

ジャンル　：　歴史・文化に親しむ

戦前の近代建築に比べ、戦後の現代建築は話題になることなく、解体されたものも多い。そんな中で今も西日本に現存する、1945年から1975年に造られた興味深い建築を巡る。豊富なイラストと写真が添えられた楽しいレポートからは、建物の内部や外観の雰囲気まで伝わってくる。大隈重信の顔や人生そのものをイメージした大隈記念館、4階が空中庭園になったホテルなど、個性とこだわりがつまった名作ばかりで、建築の楽しみ方を教えてくれる。〔521.6〕

太平洋を渡った日本建築

柳田由紀子　著
NTT出版　1680円（0011262469）

ジャンル　：　歴史・文化に親しむ

アメリカでは、19世紀末の日本ブーム以降、数多くの本格的な日本建築や庭園が造られた。万博のパビリオンだった「ジャパニーズ・ティーガーデン」、オペラ『蝶々夫人』ファンの元別荘「ハコネ」、そして日系人強制収容所跡の日本庭園など。本書では現存する12ヶ所を訪ね、研究者や関係者への取材を交えながら、ひとつひとつの建物にまつわる逸話と歴史をつづる。日本建築を愛した持ち主や職人たちの息づかいが感じられる。巻末索引つき。〔521.6〕